

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2012年3月号 旅立ちの季節



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

『マジックタイムとは…』

高橋 明佑 (リーダーOG)

『マジックタイム』とは・・・一日の風景の中で最も美しい写真が撮れる、魔法の時間。日が沈み空が青くきれいな、1日でもたった数分間しか訪れない時間のことをいうのだそうです。写真、映像用語として、その業界の人たちに使われるようですが、私はこの言葉を、今の仕事を始めてから教えてもらいました。私は現在、主に特別支援学校に通う高校生と関わりながら働いています。私が「マジックタイム」という言葉を聞いたのは映像用語としてではなく、次のような言葉として教えてもらいました。
“子どもたちと関わる中でも、「マジックタイム」がある。ただ、その瞬間を逃さないこと、子供たちへの願いをもって日々丁寧に関わっていると出会える、素敵な瞬間がある”ということでした。この話を聞いたのは、私が働き始めて本当に間もない時でしたが、頭に浮かんでくるものがありました。それがYMCAでリーダーをやっていた頃の思い出でした。その中の1つを紹介したいと思います。

大学3年生の海のキャンプのことです。私のグループのメンバーには、集団での活動が難しく、困ったことがあると周りの人に言葉等で強くでてしまうため、友達とのトラブルも多い子がいました。できるだけその子が友達の中で活動できるように、楽しいキャンプになるようにと私も必死で、その子のそばについて、まめに声をかけていました。しかし、私が何とかしようとするほど、その子の伸び伸びとした姿を見られなくなってしまいました。それなのにその子は、私のところへ来て着いて歩くので

した。自分を頼りについてきてくれる、その気持ちに伝えたくても何もできないことが申し訳なかった。キャンプの後にもふと思いついては考えることが多かったです。それから1年弱が経って、別のキャンプでまた一緒に活動することになりました。そこでも、集団の輪から外れて遠くに走っていくその子に「集まって」「次は〇〇やるよ」と話しかけていたのですが、どんどん遠くへと進んでいく…。そんな時、ふと言い方を変えてみようかと思い、「おーい、一緒に〇〇やろう」と言ってみたのです。すると、遠くへ走っていたのが、次第に弧を描いて緩やかに方向転換。私の声を聞いている素振りはないものの、走って戻ってきて2人でみんなの集まる場所へ走っていきました。その時自分が“一方的に言っていたんだ”ということにやっと気が付きました。それと同時に、走って戻ってくる姿を見ながら、とても嬉しくなって、心の中で誰に言うでもなく“ありがとう”を繰り返していました。

人と関わっている中でのかけがえのない時間という意味での“マジックタイム”は、きっと体験したその人にしかわからない瞬間なのだと思います。しかし、その人にとっては他には変えられない価値のある瞬間です。私は、もりおかYMCAは、マジックタイムにたくさん出会えるところだと思っています。ただ学生をしていたのでは、得られなかった大事なものをもらいました。YMCAで過ごした時間が、今の社会人となって働いている自分につながっていると思うのです。

「卒業」 そして、それぞれの道へ…

3月10日(土)、卒業リーダーの送別会が行われました。今回の送別会は、昨年、東日本大震災のため送り出してあげられなかった卒業生たちも改めて送り出すことができました。それぞれ働き始めているというのに、たくさんのOB・OGの方やワイズの方々が集まってくださり、とても。久しぶりに会うというのに、その場はリーダーとして一緒にふざけたり、騒いだり、バカなことをしていたあの頃と何も変わらず、楽しく賑やかなものでした。また、このメンバーが同じ場所に集まったことをとても嬉しく思います。話を聞いてみると、それぞれ悩みを抱えていたりしますが、それぞれの道でみんなの活躍を期待しています！

- 今年度卒業生：高橋里帆（岩手大学農学部卒：ホタテ）
 前田裕太（盛岡大学児童教育学科卒：ズン）
 昨年度卒業生：中村光晴（県立大学社会福祉学部卒：おかわり）
 尾木義彰（県立大学社会福祉学部卒：ベム）
 辻田優芳（県立大学社会福祉学部卒：スカイ）
 伊藤（旧姓佐藤）愛美（県立大学社会福祉学部卒：ビーチ）
 松坂美香（盛岡短期大学卒：食パン）
 江刺梢（盛岡短期大学卒：みかりん）
 尾形裕一郎（岩手大学大学院卒：ちゅー）



Yと出会って7年目。Yの仲間は自分にとって掛け替えのない存在です。これからも仲間を大切に一緒に楽しく頑張っていけたらいいなと思っています。ちゅー



きちんとお別れもできないまま早くも1年。私は奥中山学園で高校生くらいの子たちともみくちゃんになりながら毎日を過ごしています。Yでの4年間もみくちゃんにされてばかりでしたが楽しかった！多様な愛情表現、ありがとう。これからも盛岡Yがみんなの居場所であることを願います。おかわり



Yは私にとってたくさん元気をもらえる場所です☆これからも遊びに行きましょう！ビーチ

午前中のゲーム。中3も受験勉強から開放されて、思い切りプレイ！



6年生への送る言葉
 代表：5年阿部春陽くん



↓ 集合写真



↑ 卒業生へ贈り物

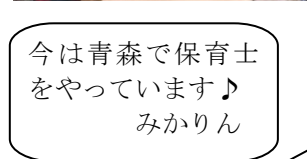


充実した4年間で
 ありがとうございます☆
 YMCA大好き♥
 現在、東京で働いています！
 ホタテ

一戸町の奥中山で働いています。今年は足首をもっと引き締めたいです！！スカイ



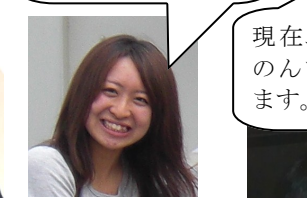
YMCAでの2年間は本当にたくさんの出会いと笑顔をもたらした2年間でした。これからも遊びに行くので見つけたら一緒に意遊んでください。食パン



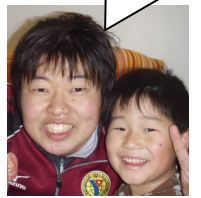
今は青森で保育士をやっています♪みかりん



今は、青森で卓球をしながら旅行会社に務めています♪ズン



現在、秋田に戻り、のんびり過ごしています。クリボー



さらにイケメンになった(!?)ベムです！毎日頑張ります(^_^)vベム



3月18日(日)、盛岡YMCAベスト・キッズとジュニア・ユースチームの「卒業生を送る会」が行われました。ふれあいランドにて、午前中はゲームで汗を流し、午後には卒業生を送り出しました。6年生たちは皆、YMCAのジュニア・ユースに上がり、仲間と共に切磋琢磨していくと意欲を話してくれました。4月からはそれぞれの道に進む中学3年生たちは、これまでYMCAで積み重ねてきたものを活かし新たな環境で自分を鍛え抜いて行きたいと話していました。それぞれの目標に向かって突き進んで欲しいと思います。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 3月報告書

○2012年3月11日

3月11日、東日本大震災から1年が経ちました。この日が近づくにつれて体調を崩す方や気持ちが落ち込む方と多く出会いました。宮古の街の中は商店街が再開し、住宅の修理を終え自分の家に戻っている方がいたりするなど、目に見える形で前進していますし、復興は進んでいます。しかしながら、目に見えない部分で苦しみ悩んでいる方々は多くいらっしゃいます。

センターの活動としては11日は午前中は活動をお休みし、教会の礼拝に参加しました。ボランティアの方々も参加し、共に祈りました。説教を聞きながら宮古に住む方々の気持ちを感じることができました。それは「なぜ？」という疑問の中で本当に我慢し、がんばって何とか日々の生活をしているということです。多くの方が気力や体力を失う中で本当に懸命に生きています。私たちはその方々を支えていく使命を与えられているんだということを確認することができました。

午後は赤前地区の慰霊式典に参加いたしました。前半部分は式典に参加し子どもから大人まで一人ひとりが作り上げた式典に参加しました。その中で、「津波が来てもあきらめない。何があってもあきらめない。心をひとつに赤前をきれいにする」という子どもの決意を聞くことができ将来への希望となりました。その後5団体合同の炊き出しにカルピフランクで参加いたしました。多くの方とお話し、一年間様々な形でお世話になった方々にご挨拶をいたしました。赤前地区はまだ自分の家がどこに建てられるかわからないなど多くの不安を抱えていますが、支えあって前に進んでいます。支えてる側も、支えられてる側も疲れが出ないように、私達も仲間となり活動していきたいと思えます。



←
3月11日
赤前小学校にて
フランクフルトの
炊き出し

→
3月11日
赤前小学校にて
フランクフルト
の炊き出し



←
3月11日
赤前追悼式典



←
3月14日
宮古小学校近くにて、横断歩道を渡る子どもたち

○横断歩道活動

3書学期に入り信号がつかしましたが、毎日継続して行ってきた横断歩道での挨拶活動で、春休みが近づき保護者の方とお話させていただく機会が与えられました。ある高学年の保護者の方からは「警察や自衛隊がいなくなり、YMCAももういないかと思っていた。宮古の地にいることができるありがたい。交通量の多い道路に立って見守ってくれることがありがたい」と言っていたいただきました。また低学年の保護者の方で私たちが立っているところまで毎朝送ってくる方は「角を曲がってYMCAのゼッケンを着た人たちが立っているのを見るとほんとに安心します。」と言っていた引き続き活動してきたことが地域の方々に受け入れられているうれしさを感じています。



→
3月14日
宮古小学校近くにて、横断歩道を渡る子どもたち

宮古での活動実績
(2月末日のべ人数)
☆受益者数 28980人
☆ボランティア数 10030人

☆池田さん、大塚さん1年間ありがとう☆



この1年間、宮古の皆さんのあたたかさの中で、活動させていただきました。今後の盛岡YMCA宮古ボランティアセンターの活動は、幼児から高齢者の方一人ひとりに寄り添い本当の意味での隣人となるよう活動を継続していくことが求められています。4月からは、大阪府堺市の小学校校長として新たな生活が始まりますが、これからも末長く宮古の皆さんとの関りを続けたいと願っています。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター
初代センター長 池田勝一



この1年間、宮古で様々な活動を行いみなさんには大変お世話になりました。私は3月末で横浜YMCAに帰任することとなりますが、宮古と気持ちをひとつに歩むことは変わりません。また宮古に来てみなさんとお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございました。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター
ディレクター 大塚英彦



こぼれ種⑮ 時を「待つ」ということ

日本基督教団内丸教会牧師（元日本YMCA同盟 主事） 中原真澄

先日、所用があって栃木県に行ってきました。道路脇にはオオイヌノフグリが咲き、満開の蠟梅や綻び始めた白梅が目に入り、もう春・・・と実感しました。でも盛岡に帰ると、まだ雪。明るくなった日射しと屋根から落ちる雫の音に気配は感じつつ、春はまだまだ・・・でもだからこそ、4月になって花々が一齐に咲き始めた時の喜び躍る感覚は、寒い北国ならではの。春を待つ・・・この思いを実感したのは、こちらに住んでからのことでした。

「待つ」・・・この感覚はでも、私たちに縁遠くはないのでしょうか。日本人がイライラせず待てるのは10秒迄・・・というアンケート結果を読んだ記憶がありますが、今はもっと短いかも知れません。パソコンの起動が30秒過ぎると「遅い！」とイライラする自分がいたり、エレベーターの扉が5秒も開いていると「閉」ボタンに手が伸びるのは私だけではないでしょう。欲しいものは直ぐに手に入れて当然・・・自分にも周りにも「ハヤク、ハヤク」と急かせる私たちがいます。

昨年秋、盛岡YMCAは他団体と協力してチューリップの球根をプランターに植え、春に被災地へ運ぶ「エコプランター里親運動」を起しました。今、宮古はじめ被災地に運んでいる最中ですが、球根は冬の寒さを体験して初めて春に芽を出すことが出来ると聞きました。いのちの営みと成長には、ある時間と体験が必要なんだ・・・そのことを実感するのが春でありましょう。花々がそうならば、まして人の成長も同様です。目に見える結果を直ぐに求めて「ハヤク、ハヤク」と急かせ、子ども達から必要な体験と時間を奪い、大切な成長を阻害してしまっていないか・・・改めて日頃の私たちの言動を振り返る時としたいと思います。

何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。生まれる時、死ぬ時。植える時、植えたものを抜く時。・・・神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。

(コヘレトの言葉 3章 1～11節から)

盛岡YMCA ふれあい交流事業

東日本大震災復興支援 フットサル大会

3月25日(日)、県営体育館にて「盛岡YMCA ふれあい交流事業 東日本大震災復興支援フットサル大会」が開催されました。沿岸地域からは「花輪」「千徳FC」「大三FC」「FC釜石」の4チームが参加。そして、盛岡近郊から9チームが参加し、計13チームが熱い戦いを見せてくれました。沿岸地域のチームは普段なかなか広い場所で練習ができない中での本大会だったので、伸び伸びとしたプレイが見受けられました。

また、今回は被災地へ送るメッセージを多くの子もたちからいただきました。被災地の方を励ます言葉、強い意志を表す言葉、支援への感謝の言葉など、どの子も真剣に悩みながら書いてくれました。用意した布はたくさんのメッセージとカラフルな手形でいっぱいになりました。これは、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターに送らせていただきます。フットサルだけでなく、この寄せ書きを通して子どもたちの交流する姿を見ることができました。



たくさんの方々に参加していただき、素晴らしい大会となったことを感謝しております。(家村)

←
子ども達の思いがびっしり詰まった寄せ書き

→
それぞれの思いを持った子ども達がひとつに。



←
試合になると、表情の変わる子ども達。



～表紙の写真よ～



おたまりリーダーとぶーリーダーからホタテリーダーへ卒業プレゼント☆これまでの思い出を額入りの特製ポスターにしました。

ホタテリーダーや昨年度の卒業生が語り始めると、たくさんの月日がよみがえり、目を熱くして思い出に浸りました。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。どんなに時が経ってもこのように集まることができたらいいなと思いました。(3月10日 リーダー送別会)

4月の予定

★4月1日(日)
向中野センター開校！！

★4月29日(日)

アドベンチャー4月活動
「春だぞ!!遊ぼぞ!!小鹿牧場!!」
(於：小鹿牧場)

●国際協力募金

一戸咲、新里ちえ子、杉下一郎、伊藤光、伊藤忠嗣、伊藤雄基、鶴丹谷三千代、大関靖二、伊藤克見、工藤泰、宮野桐次、千葉代子、川俣省吾、宇土澤光里、遠藤雅之、松尾聡子、古和田周吾、古和田龍吾、和田海璃、工藤直子、伊藤みどり

●寄付金

東京外国語大学テニス部OB、西村隆太、布川雅樹、中原真澄、越前谷洋子、石渡隆司

●維持会費

西村隆太、澤瀬理、庄司栄、大下龍之介、大下恵合子、小畑孝子、金田節子、中野泰希、齋藤凌太、永井サビエ、重石桂司、布川雅樹、中原真澄、越前谷洋子、小林茂元、水田賢次、井上修三、井上優子、井上浩太郎、新里ちえ子、花松行雄、石渡隆司、角谷晋次、角谷千代子、深澤秀男、深澤多紀子

●東日本大震災被災地支援募金・献品

小林茂元、新里ちえ子、伊藤眞一郎、齋藤凌太、松尾聡子、和田海璃、タナカヒロアキ、阿部春陽、中村恵美子、石崎眞珠、石崎稜、堺YMCA東三国ヶ丘小学校放課後ルーム、社会福祉法人イエス団友爱幼児園

感謝

2011年度11月1日～
2012年3月26日現在
順不同・敬称略